



# 元気な!WAKAYAMAへ!

## ほんまもんの改革



まっすぐ清廉政治。

### ●元気な和歌山へ

和歌山県の人口は2000年に107万人でしたが、推計によると2030年には88万人。和歌山市も37万人から28万人に減少するという推計があります。人口の減少は日本全体の話でもありますが、高齢化とともに和歌山の活力を失わせる方向に向かいます。一方で、一人当たりの貯蓄残高は全国で第4位ですから、お金を持ったお年寄りの県になっていきます。

### ●人材誘致

企業誘致も大切ですが、むしろ「人」を誘致して、この全国有数の貯蓄をうまく投資に回せる枠組みをつくる必要があります。関西空港が至近距離にあるのですから、アジアを中心に優秀な外国人に来てもらい、県や市の優遇制度とからめた投資環境の良さを売り物にしたらどうでしょう。ファンドも優遇した上で、和歌山の人の投資には県や市がマッチングで同額の投資をし、公的部門はリスクを優先的に取り、儲けは民間が優先的に取るようにすれば、眠っている和歌山のお金が動き出すはずです。

### ●コンテンツ特区

このような仕組みで、「人」を呼び込んでIT産業や、デザインセンターなどのコンテンツ産業を育てていけば、若者の働く場所も生まれてきます。今、県外の大学・短大への進学率が9割です。約1万人の高校卒業生のうち、8千人が進学し、その内7千人は県外に出ます。そしてほとんどが県外で就職します。大学はたいへんにしても、ITやコンテンツデザイン、アニメ関係の専門学校などを県内につくことも夢ではなくなります。

### ●産直市場のネットワークを観光資源に

また、今の和歌山県の潜在力を利用する方法もあります。果物の生産は日本一の柿、ネーブル、山椒のほか、梅やみかんが代表的です。さらに、農業と観光を組み合わせることが可能です。紀の川市の「めっけもん広場」のような県内の産地直売の市場をネットワーク化し、これを観光資源にしてしまうのです。

### ●自然立県

開発が遅れた分だけ、周回遅れの強みもあるわけです。循環型の環境に優しい地域作りの先頭を走るべきです。和歌山の土地はほとんどが山林です。もしも独立国になれば、二酸化炭素排出権取引ができるわけですから、その意味で資源大国となることも可能です。



1956年(昭和31年)7月12日和歌山市三番丁生まれ。  
広瀬小、城東中、桐蔭高校を経て、  
東京大学法学部卒業。  
1980年 大蔵省入省 内閣総理大臣秘書官付、  
主計局主査(厚生省、通産省)、  
米国プリンストン大学東洋学部客員講師、  
財務省・経済産業省課長  
2004年 4月、財務省退官、トヨタ自動車(株)入社、  
内閣府政策参与兼務  
2005年 8月、トヨタ自動車(株)、内閣府退職

第44回衆議院議員選挙出馬78,621票  
獲得するも惜敗、現在、次期を目指し奮闘中!

現職 民主党和歌山県第一区総支部長。

[www.shuheik.jp](http://www.shuheik.jp)